

【発表概要】

中華人民共和国における空手道の普及 －受容・発展及び影響－

発表者：謝 勁文
(早稲田大学スポーツ科学研究科)

本研究は、主にフィールドワークの方法論により、中華人民共和国（以下「中国」と略す）における空手道の普及を「受容・発展及び影響」という視点から振り返ることを目的とする。

本研究で取り上げる空手道は、日本の「伝統文化」の一つとして位置づけられる武道であり、第二次世界大戦後には世界中で普及してきた。特に近年、空手道は、中国で急速な発展を遂げている。日本の空手道が本格的に中国に伝えられたのは、1990年頃のことである。2005年以降、日本の空手道界がオリンピック種目化の申請をするに及び、中国においても空手道は中国武術のライバルとして注目された。2008年には中国空手道協会が設立され、中国で空手道の普及が公式に始まった。今日、中国全土で空手道の道場・倶楽部の数は2万以上、修行者の規模は約30万以上に達している。このように、なぜ空手道は中国で広範な普及を果たしたのか、中国における空手道の普及の意味や意義とは何か。これらの問いに答えるために、①中国における空手道の受容過程（1981-2008）を、②中国における発展過程（2008-2023）を、③中国における空手道の普及の意義を考察した。スポじんサロンではその主な研究成果を報告する。

中国における空手道の普及は、全日本空手道連盟の「空手道憲章」が表明する、高い倫理観や礼節など精神面での価値と意識の伝達、日本武道学会が幾度ものシンポジウム開催を通して訴えた空手道国際化の念願、そして近代スポーツを積極的に導入しようとする中国政府の国策、こうしたいくつもの動きが複雑に絡み合うなかで展開した運動と捉えることが可能である。そのもつれをほぐしながら、これら諸々の動きを左右した決定や実践に実証的なメスを入れることによって、中国における空手道普及の実像を炙り出し、その意義を検証しなければならない。これを今後の課題として明記し、本研究を締めくくるものとした。

主要文献

沈惠章（1991年）、「中国第一个空手道训练班」（日本語：中国初の空手道教室）、『中国体育報』，1991年3月16日。

张宏春（2008年）・陈卓，「空手道在中国的传播及发展现状」（日本語：中国における空手道の伝播現状），軍事体育進修学院 27-(1)，pp：78-80。

全日本空手道連盟ホームページ，「空手道憲章」，<https://www.jkf.ne.jp/kensho>，（参照日 2024年09月01日）